

平成四年歌会始御製御歌及び詠進歌

風

御製

白樺の堅きつばみのそよ風に揺るるを見つつ新年思ふにひどし

皇后陛下御歌

葉かげなる天蚕てんさんはふかく眠りゐて櫟くぬぎのこずゑ風渡りゆく

皇太子殿下

いにしへの歴史しのびつつ島訪ひぬ松が枝を揺る瀬戸内の風

文仁親王殿下

悠久の壁画眺め居古人を思ふ風爽けきメコン河畔に

文仁親王妃紀子殿下

星の夜テントの中にともしたるランプのほのほ風にゆらげり

清子内親王殿下

葦原を波のごとくにわたりゆく風の真中まなかに目をとちて立つ

正仁親王殿下

風寒くすすきのほむら波うちて湯布の高原に日のくれんとす

正仁親王妃華子殿下

野に遊ぶ子らの声ごゑそよ風にのりてはづめりうらら春の日

宣仁親王妃喜久子殿下

絲たぐり風のまにまにたこあげを友ときそひし遠きはつ春

崇仁親王殿下

バイユーのタペストリーを見んものと風雨のノルマンディーに車走らす

崇仁親王妃百合子殿下

雲間より夕日さしくるすすき原穂波うねりて風渡る見ゆ

寛仁親王妃信子殿下

病院に君を見舞ひし日々すぎていま風なごむ春となりたり

憲仁親王殿下

新年のみ掘をわたる風きよく松のみどりのあざやかに映ゆ

憲仁親王妃久子殿下

春はやき出雲の宮居をろがめば吹きくる風にゆるる榊葉

召人 長澤美津

ひとしなみ老いも若きも立ち返るみ世を支ふるあまつ風の子

選者 渡辺弘一郎

硝子越しに時をり覗く庭くさむら微かなる風のみち見ゆるなり

選者 千代國一

身にふれて風吹き過ぐる林なか芽ぐまむものは光をたたふ

選者 田谷 鋭

農作にかかはりありと今に知るつたふる言葉「五風十雨」も

選者 武川忠一

樟わかば光と影のさやさやと風はみどりの野を渡りくる

選者 岡野弘彦

三輪山のいただきにゐてかすかなり大和の田居を風わたる音

選歌 (詠進者生年月日順)

京都府 平木次郎

余呉を過ぎなほ北に入る雪の原太き稲木に風は鳴るなり

アメリカ合衆国
カリフォルニア州 藤田 実

ピナツボの火山灰運び来し西の風今宵加州を金色に染む

神奈川県 相原トキエ

風に転ぶ帽子追ふさへ楽しくて発光体のごとき少女ら

広島県 国 信玄

号砲の鳴りて一瞬遅れたる難聴児風切りトツプにたてり

千葉県 鈴木芳子
鹿除けの網張り終へし峡の田の早苗は風に生きいきと立つ

滋賀県 山田愛子
夫も子も消防職に就きてより心騒ぎぬ風強き日は

愛媛県 清水時子
春の風吹く丘に来て嫁ぐ娘と言葉すくなく蓬摘みつぐ

愛知県 小島貞夫
伸びやかにからだ撓はせ少年の放ちし槍は風に乗りたり

三重県 中村辻弘
台風的最中を齋庭ゆにはふかく居て徹宵警備の帽を正しぬ

青森県 小山田信子
小学生の息子が染めし藍のれん風くるたびにめだかが泳ぐ

佳 作 (詠進者生年月日順)

静岡県 石川熙一郎
北風をふさぐと軒に莫塵たらし桶造りみき居職の父は

石川県 竹西辰雄
寝たきりの兄のこのめるバラの鉢風の吹く夜は部屋に入れおく

福岡県 永富 臻
風通す窓を閉ざしてにじむ汗拭きつつゑぎぬ絵絹の裏打ちをなす

長野県 村上忠夫
薄荷糖作りて暑き工場に夜風入れむと窓開け放つ

神奈川県 山下アイ子
ビル風に巻き込まれたる盲導犬はあるじと共に足を踏ん張る

長崎県 有田秀子

灰かぶる野菜畑を案じつつ普賢岳ふげんの風向き耳たててきく

静岡県 柴田とみ子

荒々しき灘の潮鳴り聞こえる防風林に君を待ちにき

福岡県 長野秀子

ぼた山の若葉が風に騒ぐ日は幻に聞こゆ坑夫等らの声

新潟県 渡邊悦子

白き花風に散りくるえこのきの下に粽の若笹を摘む

千葉県 松谷鈴枝

ゆらゆらと風に遊べり穏やかな夫が育てし風船かづら

香川県 今雪史郎

寒風のアンデス越えし明治移民その子等ひそとアマゾンに老ゆ

富山県 大寺美也子

小手毬こでまりの白き花散る風の中幻の母揺れて明るし

滋賀県 中村憲雄

分校に近づき来れば風にのりて八人の声山羊の鳴き声

福井県 山口絹子

山風に屋根の雪飛ぶ昼下がりに身を引き締めて紙を漉きをり

愛知県 中村 均

陽に向かひ青葉の先につま立ちぬ七星ななほ天道虫してんたう今し風待つ